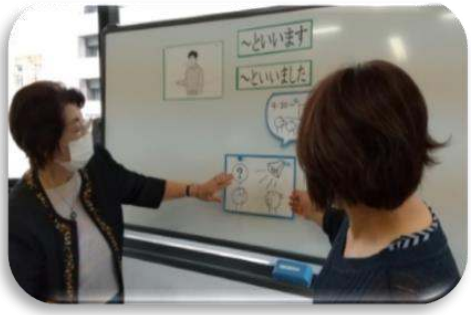
えひめ日本語ネットワークNEWS

第11号　2020. 11

コロナ禍に思う

招かれざる客の来訪に世界中が大童。コロナ禍における教育の現場も様々な形態の変化を余儀なくされた。小学校から大学までオンライン授業となり、外国人に対する日本語授業も例外ではない。遠隔地や離島に住む人、或いは何らかの事情で通学が不可能な人には居ながらにして学べるオンライン授業は光明に違いない。しかし、初級レベルの外国人学生には疑問符が残る。彼らのわずかな反応や息遣いまでが理解度を図るバロメーターになっている教師側の立場からは対面授業でなければ両者とも消化不良となり学生は達成感のないままになってしまう。せめてここだけはアナログの領域が望ましいと願うのは、デジタル世代に遅れをとっている高齢者のひがみだろうか。



ボランティア日本語教師育成講座

私達は今日まで数多く文明の利器の恩恵を受けて来た。多機能なロボットの登場も然り。AIをはじめ、掃除、介護、応対など異なるジャンルで人知を超えた働きぶりを見るにつけ今の世に生きている誇らしさのような幸せを感じる。

内閣肝入りのデジタル庁創設など今後益々ＩＴ化に拍車がかかり、日本の水準アップが約束されることだろう。リモート会議、テレワークなど日常化しつつある昨今、老婆心ながら利便性の陰に潜む危うさにご用心をと祈る。　　(宇野美登里)

MIC日本語教室後期開講

10月13日(火)にMIC日本語教室の後期授業が開講した。新型コロナ感染予防対策に配慮しての対面授業だった。教師の熱意と学習者の真剣なまなざしが感じられ、対面ならではの温かさと満足感が伝わる授業であった。今期、実践コースの川原真美子さんと小林圭美さんが夫々1コマずつ担当する。お二人には対面授業の新しい経験を積んでほしい。　(AS)

オンライン授業って、どうしてるの？

オンライン授業については、興味を持っている方も多いのではないでしょうか。
今回、実際に１年前からオンラインで授業をなさっている元えひめ日本語ネットワーク会員の方に具体的に伺ってみました。

Q１．ご使用のツールは何ですか？

メインはSkypeです。国や地域によって、また生徒さんのインターネット環境などによってZoomの場合もあります。

Q２．レッスンは、1対１ですか？複数の学習者の場合もありますか。

基本的には１対１ですが、場合によっては、2～３人の場合もあります。私の複数の生徒さんはご家族なので、同じパソコンで一緒にレッスンを受けていただいています。

Q３．どんな国の方がいますか？学習者のレベルは？

欧米圏の方(アメリカ/スペイン/フランス)が多いですが、パキスタンやUAEの方もいらっしゃいます。レベルは初級、初中級の方々です。

Q４．レッスンの内容は？ 方法も教えてください。

会話、テキスト(GENKI)やその他の教材を使用してのレッスンです。フラッシュカードが必要な場合は、主にアプリ(各テキストのものなど)を使用しています。また、文型によってKeynote（Macのソフト）やパワーポイント、AutoDrawなどを使い分けて画面共有しています。

Q５．レッスン時間はどのくらいですか？

ほとんどの生徒さんは１回50分です。でも、生徒さんによっては25分(時間があまりない/初心者など)や75分(まとまった会話練習がしたい など)の方もいらっしゃいます。

Q６．オンラインレッスンで、効果的に教えられること、「オンラインでよかった」と思うこと。

やはり教室にはないものを提示できることです。自宅でのレッスンですので、例えば「家にテレビがあります/ピアノがあります」などの導入がスムーズにできたり、スカーフとマフラーの違いについて質問があった場合、すぐにレアリアを提示したりすることができます。
また、大量の教案や資料を持ち歩かなくてもいいということです。日本語教師はどうしても荷物が多くなりがちですが、大半の資料や教材がパソコンに入っている上、自宅ですので急

な質問や復習でも前回のテキスト、文法書をすぐに提示することが可能です。

Q７．困っていることはありますか。

インターネット環境が悪い生徒さんもいらっしゃって、声がとても聴きにくかったり、生徒さんによってはカメラ機能がないパソコンを使用されているため顔が見えなかったりする方もいます。その場合、理解できているかどうかの判断が難しいです。また、お子さんがいらっしゃる方や近所が工事中でレッスンに集中できない環境の方もいらっしゃいます。

Q８．これからの日本語教育におけるオンライン授業をどう思われますか。

今年はコロナウイルスの影響で、本来なら来日する予定だった世界中の方とレッスンをしています。また、お仕事前や家事の合間など、ちょっとした時間にレッスンを受けてくださっている方もいます。どこにいても簡単に且つフレキシブルに日本語を勉強していただくことができる１つの手段として、とても有効だと思います。

（家安省子）

「学びのコーナー」を考えてみました

「えひめ日本語ネットワークNEWS」第10号の類義語の意味用法と例文についての解答です。

「疲れる」と「くたびれる」の違いについて

1）「疲れる」は肉体的・精神的疲労に使うが、「くたびれる」は肉体的疲労に使う。

①久しぶりにテニスをしたので、足が**疲れた**。

②入社試験で緊張して**疲れた**。

2）疲労の度合いは「くたびれる」のほうが大きい。「疲れる」は疲労度が大きくても小さくても使える。

①一日中仕事で歩き回って**くたびれた**。

②好きなことに没頭している時間は心地よい**疲れ**をもたらしてくれる。

3）「くたびれる」は物の状態や形状の悪化を表すが、「疲れる」に現在この用法はない。

①この靴は5年も履いているので、だいぶ**くたびれて**いる。

4）「疲れる」は会話から硬い文章まで使えるが、「くたびれる」は会話のみで、挨拶言葉（×おくたびれさま）や敬語(×おくたびれになる)、名詞形（×くたびれ）は使わない。

両者ほぼ同じ意味だが、「疲れる」のほうが使用範囲が広いといえる。（加納来実）

伊予弁あれこれ

私は、現在、宇野先生の初級クラスIIを受講しています。授業中、ときどき「伊予弁」の話題がでます。 特に先生から、外国から来た人たちは「はよせい」と言われても分からない、「発音をするのに楽譜が必要」という話をよく聞きます。愛媛に住み生活している私にとって、「早くして」という言葉とそんなに違わないと思っていたので、本当に意味が分からないのか不思議でした。

そこで、今回、若草日本語教室の学習者3名に実際に日常よく使われている10の伊予弁を聞いてもらい、どれくらい伊予弁を知っているか調べてみました。学習者はいずれも東南アジア出身の主婦で日本人の配偶者です。松山居住歴はAさんが18年、Bさんが2年半、Cさんが1年で日本語のレベルはAさんがN1，BさんがN3，CさんがN2です。

調査の結果、「かまんかまん」「なんしよん？」「どこ住んどん?」という3つは、Aさんも家族や学校の友達の間でよく使うそうです。「かえってこーわい」「ほーなん」はときどき学校や買い物の店で使うとのことでした。「はよせんか」は聞いたことはあるが、意味が分からないそうです。この言葉は研修性の職場では指示・命令に使われますが、男言葉なので、Aさんには馴染みが薄いのでしょうか。「財布、うさした」「お茶、かやした」「あー、そくった」などは聞いたことがないので、意味が分からないそうです。Aさんの場合、中学生と高校生のお子さんがいるので、伊予弁に触れ、使用する機会も比較的多いのではないかと推察されます。

一方、B さんと C さんは夫婦二人の生活で、家庭では主に他言語を使っているそうです。日本人との接触も少なく、日常生活で伊予弁を聞いたことがほとんどないそうで、伊予弁は全部わからないとの回答でした。ただ、C さんは「どこ住んどん？」は「どこ」「住む」から、何となく意味が想像できると言っていました。B さんも C さんも日本人と日常会話ができるレベルです。もし日本人の友達ができて、伊予弁が理解できるようになったら、日本語を学ぶ楽しさも増すことでしょう。地方に住んでいるからといって方言を使う必要は必ずしもないと思います。しかし、その地域に馴染んでいくためには、その地域の人々との交流を通して方言を理解し、会話の中で使っていくことがとても大切なのではないでしょうか。

（山本栄美子）

＊財布、うさした＝財布をなくした： お茶、かやした＝お茶をこぼした： あー、そくった＝あー、失敗した

問い合わせ先：えひめ日本語ネットワーク事務局

Email ： ehime-nihongo@nifty.com